

千葉県社保協通信

2016年度 — No12 2017年 2月 2日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉セカビル3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

重度心身障害者(児)医療費助成制度の自己負担等の中止求め

要請署名 17,803筆を提出

一障千連・県社保協一

障害者の生活と権利を守る千葉県連絡協議会(障千連：天海正克代表)と千葉県社保協は1月31日、重度心身障害者(児)医療費助成について、①一部自己負担金の徴収中止 ②対象者を年齢により制限しないこと ③精神障害者も対象とすることを求める県知事宛要請書を17,803筆の署名とともに提出しました。

この日の行動は「障害者の生活と権利を守る全国連絡協議会」の結成50年を記念し、全国の首長にパンフレット「障害者権利条約にふさわしい障害者施策の実現を！」を直接手渡す運動として取り組まれました。

知事との懇談はかないませんでした。障害者団体の代表ら7団体8人が出席。諸橋省明副知事にパンフレットを手渡し懇談。県の重度心身障害者医療費助成制度や障害者総合支援法の介護保険優先原則の改善などを訴えました。

要請書を受け取る諸橋副知事



社会保障制度改悪の中身と狙い 知って知らせて、安倍政治ノーの声を広げよう !!

中央社保協は全国「10,000ヶ所学習運動」を呼びかけています。

県内各団体・地域社保協で旺盛に学習会やシンポジウムが開かれています。一情報をお寄せくださいー

流山社保協 / 介護シンポジウムに70人

どうなる介護 利用者は？ 従事者は？

流山社保協が1月25日、流山市内で開催した介護問題シンポジウムには70人が参加。パネラーとして介護支援課長が改定後の取り組みと総合事業について説明。地域包括支援センターやヘルパー事業所のパネラーは「利用料2割負担」や「ヘルパー不足」の問題など、改定が事業者や介護従事者、利用者に与えた影響について話しました。つづいて、

生活と健康を守る会の妹尾会長が「利用しづらい介護保険の問題点」を報告しました。

会場からは「ヘルパー経験があるが身体介護の時間短縮で十分な介護ができなかった」との発言。さらに「高い介護保険料を引き下げてほしい」との要望が出されました。これに対し市の担当者は「基金の活用で何とか保険料を引き下げたい」と応えました。

参加したTさんは「行政と市民が一緒になって制度をよくしたい。『年を取るなら流山』と言えるようにしたいもの。今回のような和やかに真剣で建設的な場がもっと必要」と話しました。 —左下に写真—



松戸社保協 / 医療とTPP テーマに講演学習会

1月21日、松戸社保協は「新春講演学習会」を開催し、全国保険医団体連合会の寺尾正之氏が、「医療とTPP～この先に待つ社会保障制度とは～」のテーマで講演しました。

アメリカ大統領はTPP離脱を表明したが、二国間協定やアメリカなしのTPPなども画策されていること、この間の薬価の問題には、アメリカの製薬会社の思惑がからんでいること、また共済制度も狙い撃ちされることなど学びました。